



地区RYLAセミナー

国際ロータリー第2510地区 RYLA委員会

委員長

齊藤 朋博

(札幌南RC)

2023年5月12日から14日に、札幌市青少年山の家で第20回RYLAセミナーを開催致しました。今回は2泊3日への挑戦とRYLAを地区内に周知することに重点をおいてプログラムを構成致しました。

これまでのRYLAセミナーは1泊2日で開催してきましたが、参加者やロータリアンから「短い」との声が多く聞かれていたことや、私がRYLAを学んだ第2680地区の余島では3泊4日の充実した内容で開催していることから、石丸修太郎ガバナーに相談し、2泊3日での開催を決断いたしました。しかし、いざ募集してみると、「金曜日は仕事を休めない」「研究があるため金曜からの参加が難しい」などの声が多く聞かれ、米山奨学生やライラリアンにご参加頂く事が出来ませんでした。それでも、ガバナー公式訪問の際に宣伝頂くと共に、ガバナー補佐、青少年奉仕委員会、ホストクラブ（札幌西RC）、ローターアクトクラブのご協力のもと13名にご参加頂き、2グループを構成することが出来ました。

またRYLAを地区内に周知するために、1人でも多くのロータリアンに参加頂くようRYLA委員以外にカウンセラーを依頼、4委員会の地区委員長に活動報告を依頼、講話をロータリアンに依頼、一般参加のお声かけ、動画製作を通じてオンライン配信を行いました。RYLAに参加したロータリアンは一様に「これは素晴らしい」「来た日と帰る日の表情の違いが成長を物語っている」と仰います。是非一人でも多くのロータリアンに青少年の成長を見て、RYLAの意義を感じて頂きたいと思えます。

RYLAのプログラム構成で大切にしている言葉があります。それは今井鎮雄元RI理事が余島の石碑に刻まれた「人と出会い、神と交わり、愛の火の燃えるところ」という言葉です。1日目は「人と出会い」各地域から集まった同世代の若者が互いを知り、精神的親睦を深めるところから始まります。2日目は「神と交わり」ロータリーの奉仕哲学に触れ、学びを深めます。3日目は「愛と火の燃えるところ」奉仕の心が育ち、心に燃えるRYLAの火を感じ、活躍すべきそれぞれの地域へ帰っていきます。

これに則り、1日目は受講生にRYLAやロータリークラブを知って頂く為、石丸修太郎ガバナーにRYLAとロータリークラブについてご説明いただいた上で、地区の委員会活動報告として、西方洋昭副委員長の司会により、入井浩樹米山奨学・学友委員長、高橋耕ローターアクト委員長、富岡豊国際奉仕・VTT委員長、志田勇人次期ポリオプラス委員長に登壇頂きました。



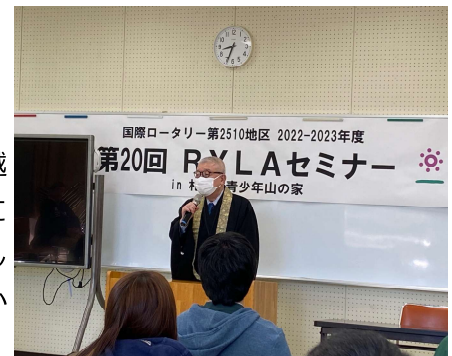
ロータリークラブ、RYLAについて知ったうえでセミナーがスタート致します。RYLAはチームビルディングを重要視しておりますので、まず受講生をチームに分けた上で、アイスブレイクを行って、緊張をほぐし、親睦を深める準備を進めます。アイスブレイクでは外の広場で紐を渡し、蜘蛛の巣を作るというもので、知り合ったばかりの6～7名の若者が話し合いながら作業を進めます。「虫が通りやすいところに張ろう」「木からぶら下がってきて、作るはずだから枝から一本垂らそう」など様々な意見を出し合いながら熱中し、20分ほどで立派な蜘蛛の巣が完成しました。2つのアイスブレイクを行った上で、夕食を摂り、出村知佳子ガバナーノミニーに「女性のリーダーシップについて」講話して頂きました。それぞれにスケッチブックを渡し、意見を書く参加型の講話で「リーダーシップのイメージ」について質問した所、「周りをまとめて、引っ張っていく事ができる」という意見が多く出ておりました。参加型の講話で受講生の関心が高く感じられました。



その後、チームごとに飲み物や軽食を分けて、自己紹介や仕事の話、セミナーに来た理由、日常の話などを通して、親睦を深める時間を過ごしました。

2日目は「神と交わり」ですから、ヨガで精神を整えた上で、朝の法話として羽部大仁パストガバナーにご登壇頂きました。

外部講師株式会社APRグループの青木康明様に「コロナを乗り越えるリーダーシップ」について、ご自身の体験を中心に、いかにして厳しい社会情勢を生き抜いているのかについてお話を頂きました。青木氏の積極的な経営、挑戦、海外戦略は受講生の心をつかみ、多くの質問が出てとても刺激的でありました。



午後からは野外でのレクリエーションを通して、グループワークや森、木について学ぶ時間を過ごして頂きました。滝野自然学園にご協力頂き、ツリークライミング、ピザ窯焼き体験、マイ箸けずりに取り組みグループの一体感が高まっていくのを感じました。体を動かして少し疲れて来た頃に設けているのが、「思索の時間」というプログラムです。思索の時間では、携帯電話を預け、一緒に活動してきたグループから離れ、1時間誰とも話さずに過ごします。この時間の中で、受講生はセミナーで学んだこと、目標、悩み、自分の成長などについて向き合います。その後夕食を摂り、長田正文職業奉仕委員長からメインフォーラムのため「西遊記のリーダーは誰か」というディスカッションテーマを発表し、説明して頂きました。このテーマに基づいて、各グループはそれぞれの特徴を洗い出し、それぞれのリーダー像についてディスカッションを深めていきます。



また2日目の夜には「カウシルファイア」というプログラムを設けております。カウシルファイアでは小さく燃える火の前に座り、静かに火と自身を見つめます。そして受講生の心に佐藤直輝RYLA委員が語りかけ、そっと心にRYLAの火を灯すのです。クライマックスには秋葉聡志委員のギター演奏に合わせて「我はふくろう」を歌い、心をついにしました。その後、グループごとにフォーラムテーマのディスカッションが夜遅くまで繰り広げられました。



3日目は玉井清治ガバナーノミニー・デジグネートから朝の講話としてロータリーのリーダーシップについてお話し頂いた上で、フォーラム発表を行いました。フォーラム発表を通して、強く周囲を引っ張るタイプ、よく話を聞きサポートするタイプ、高い倫理観で背中を見せるタイプ、真面目にコツコツ任務をこなすタイプなど様々なリーダー像ある事を知り、自らが持つリーダーシップについて気が付く時間となりました。初日不安そうだった受講生の姿はなく、堂々とリーダーについて語る姿がとても頼もしく感じられました。

2泊3日のRYLAセミナーを実現できたことは、石丸修太郎ガバナー、松浦光紀ガバナーエレクト、出村知佳子ガバナーノミニー、玉井清治ガバナーノミニー・デジグネート、羽部大仁パストガバナー、国立金助パストガバナー、細川好弘パストガバナー始め、第2510地区の幹事、委員長、各委員会、ホストクラブを務めて頂いた札幌西ロータリークラブ、カウンセラーを務めて頂いた平川香織地区RLI委員長、松下早苗ガバナー補佐、西村英晃地区青少年奉仕委員長、後藤広隆地区RYLA委員、札幌市青少年山の家、滝野自然学園、地区RYLA委員会、ガバナー事務所に心から感謝申し上げ、ご報告と致します。

